

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000317		
法人名	有限会社 松井		
事業所名	グループホーム レジデンスポピー (1階ポピーユニット)		
所在地	小樽市入船4丁目22番3号		
自己評価作成日	平成28年2月26日	評価結果市町村受理日	平成 28年4月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=017200317-00&PrefCd=01&VersionCd=022#title04
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成28年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域密着型サービスの役割を最大限活かし、地域での生活を大事にできるように努めると共に、利用者それぞれに合わせた買い物や外食など、外へ出て社会参加ができる機会を持つよう取り組んでおります。また、ケアマネジメントをしっかりと行うことで、利用者を深く知り、できる活動、している活動に着眼し能力が維持できるようなケアプランに反映しております。さらに、地域に開かれた事業所運営に努め、地域の保育園との交流も定例化できるよう取り組んでいます。また、各種行事毎には、ご家族参加を呼びかけ徐々に参加率も増えてきている現状です。当事業所は、グループ法人で資格取得機関を有しており、資格取得及び研修会参加等、職員のスキルアップ向上、倫理観の醸成等、福祉人を育む環境があり学ぶ機会を積極的に提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域は高齢者が多く、町内会活動は活発でないが、事業所行事のクリスマス会などに地域住民・家族に参加を呼びかけ交流に努めている。また、幼稚園児の訪問があり歌を歌うなどして交流し園児と触れ合っている。今後も情報発信やイベント参加の呼びかけを地域住民などに向けて行う。家族の事業所への一層のかかわりを実現するため、事業所通信を発行して利用者の生活を家族に知らせることを計画している。ペットボトルボウリングなど皆で楽しめるレクリエーションに加え、詩吟や毛糸編みなど家庭でしていた個々の趣味が継続できるように支援している。一緒に暮らす家族のように、利用者に料理法を聞いたり、餃子の餡包みなど調理の準備や後片付けを積極的に手伝ってもらい頼りにしている。「地域と家族に開かれた事業所」「職員は自ら考えて動く」「利用者個々に向けたケア」の理念は徐々に浸透し始めており、今後ますますの充実が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が 増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が みられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足している と思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせて いる (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足 していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、 安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 グループホーム レジデンスポピー（1階ポピーユニット）	地域や自然と触れ合える、あたたかい雰囲気の中でその人らしい生活が出来るよう理念を作り上げ日々実践に繋げている。また毎朝職員は理念を復唱し日々確認している。	「地域に触れ合いながら」「家庭的な環境で」「安心して生活する」の理念と、職員の行動指針を定めて、日々のケアが理念に適合しているかを会議やミーティングで確認している。職員は自ら考えて動き・ケアに当たることを行動指針としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園児の慰問が年2回あり、遊戯を見たり一緒に歌を歌っている。事業所の敬老会、クリスマスパーティー等諸行事の際に、家族及び地域住民に案内し参加していただき、地域との交流を図っている。	町内会に加入し、事業所のクリスマス会やジンギスカンパーティーには地域住民の参加がある。園児とはお話をしたり、似顔絵を描いてもらって楽しく交流し、利用者の大きな楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月1回開催の運営推進会議を通し、グループホームの役割や事業所内での支援について理解を深めていただけるよう情報の発信啓蒙活動をしている。また、見学者や介護相談時にはアドバイスをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民代表、行政職員の参加のもと2ヶ月に1回開催している。運営推進会議ではホーム運営報告、避難訓練、意見交換などサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。	地域住民、地域包括支援センター職員、家族、民生委員などが出席し、今年度は4回開催。現在は2ヶ月に一度開催できている。事業所行事・ヒヤリハットなどの報告や、災害訓練の消防署の講評を議題にして課題解決のための意見交換をしてサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政主催の集団指導や意見交換には必ず参加している。毎月1回は現況報告等保険者とは密に報告、連絡をしている。	市主催の研修や意見交換会には必ず参加している。法令上の疑問点、運営上の不明点があれば気軽に電話や訪問して相談し、毎月1回は現況報告等を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部、外部研修において、拘束に繋がる具体例や弊害について理解を深め、リスクマネジメント委員会を設け定期的に身体拘束をしないケアの周知徹底を図っている。	外部研修で得られたことを事業所に持ち帰り、拘束の弊害について全職員が共通理解して身体拘束をしないケアに努めている。日中は施錠せず、見守りに対応する。「ちょっと待って」はネグレクトの一種であると理解し、利用者の発問があれば必ず何らかの応答を直ちにするように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に外部研修へ参加し、その研修内容を内部研修で報告し高齢者虐待防止法について全職員で学んでいる。		

グループホーム レジデンスポピー（1階ポピーユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	厚生労働省より配布しているリーフレットの配布や、以前に実務者研修修了生や初任者研修修了生の教科書をいつでも閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居時及び内容変更が生じた場合は必ず、利用者様ご家族全員に書面で理解、同意をいただけるまで管理者が説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会時や電話連絡の際に、困りごとや、意見を伺っている。	家族の面会はそれほど頻繁ではないが、来訪時にはできる限り会話を交わすように努め、利用者の情報を伝えながら、困りごとや要望、不満がないかを聞き取っている。	意見を引き出すためには、家族に利用者の情報を十分に知らせ、事業所への来訪を促すことが必要となる。通信の発行や電話・手紙で情報を伝え、イベントに家族を積極的に招待するなどの方法で事業所と家族とのかかわりを一層密接にすることを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1・2度会議を開き、職員の意見、提案を聞き入れ反映させている。	施設長と管理者は、職員から事業運営上やケアの方法に関する提案が出やすいような雰囲気づくりを心掛けて、意見や提案を会議で検討し運営に反映させている。たとえば、リスクマネジメントの周知徹底のため、具体的取り組みを回覧板として職員に回すことにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を定期的に行い能力評価や適材適所のユニット配置等、働きやすい環境整備、労務管理に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内外OFF-JT、職場内でのOJTやスーパービジョンができる職員の配置等、自己研鑽できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟し、勉強会・情報交換その他諸行事への参加を通じて同業者との交流を深めサービスの向上に努めている。		

グループホーム レジデンスポピー（1階ポピーユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居後も何度も面談を行い、困っていること、不安なことを親身になって聞き入れ、本人との信頼関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何度も面会を重ね、何でも相談できるような信頼関係を築くことに努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回アセスメントから課題を分析しサービスの必要性、実直に必要なサービスの見極めを行い暫定でのプラン作成、実施に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側、共に支えあいを大事にする関係作りに努めている。盛り付けや皮むきなど調理の準備を利用者に手伝ってもらっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方との関係を維持出来るよう、月一度の外出などに協力をしていただいている。今後は、事業所のイベント、例えばバーベキューパーティーなどへの協力を働き掛けていきたい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が通いながれた理美容室に通い、商店街で買い物ができるよう支援している。	馴染みの人の来訪を歓迎し、ゆっくり話ができるような環境を作っている。散歩や入浴で昔の歌を歌ったり、現役のころの思い出をどんでん話してもらい、昼食に家庭で食べていたメニューを提供して、五感で懐かしさを感じてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや活動、諸行事を通し同じ時間を共有したり、交流が上手くとれない利用者様には職員が間に入りコミュニケーションが取れるよう支援している。		

グループホーム レジデンスポピー（1階ポピーユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も近況の報告を受けたり、相談にのったりと関係は継続するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦を本人家族からの聞き取り、日々の行動、言動を観察し自身の思いや希望を把握できるよう努力している。また家族の方からも過去の情報を伺っている。	日常の会話から希望をくみ取り職員間で共有し、すぐの実現できなくても準備を重ねる。例えば「真かすべの又タ」を食べる希望にいつか応えるため調理法や食材入手先の情報収集をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族からの情報収集を行い、これまでの暮らし方を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	分析シートを用い、一人ひとりの心身状態、残存能力を把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開き現状に合う支援を話し合い、反映し介護計画を作成している。	利用者・家族の意向を反映させ、担当者の情報などをもとにカンファレンスを開き、現状に合う支援を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。定期的な見直しのほか、必要があればその都度変更して、家族に了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録に、日々の様子や気づきを記録し、職員間で情報の共有をして介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応出来る様、本人、家族との話し合いや職員でのカンファレンスで、意見を出し合い柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域で生活していた社会資源の探掘と開拓をしていくべき、運営推進会議を通し、各関係機関との情報共有を行って、今後資源の活用について検討していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月2回、利用者様個別で往診して頂いている。又、かかり付けの病院を受診する際は、家族または職員が付き添っている。	本人・家族の希望を最優先して医師を決定している。家族の要望があれば、かかりつけ医への受診に職員が同行し、結果を家族に報告する。家族が付き添う場合は状況・経過を画面にして持って行ってもらう。協力医による月2回の往診がある。	

グループホーム レジデンスポピー（1階ポピーユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護師はいないため、連携医療機関へ健康管理、医療面での相談をいつでも出来る体制をとり支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームに看護師はいないため、連携医療機関へ健康管理、医療面での相談をいつでも出来る体制をとり支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの方針を家族に説明し、家族、医師との連携を図り暮らしの維持に努めている。現在ターミナルケアは行っていないが、家族、医師、関係者との連携を強化し、方針の共有を図っている。	契約時に、重度化時に事業所ができる範囲を説明して同意を得ている。現実化した時は、できるだけ早い時期に利用者の現状や医師の見解を知らせて、話し合いの機会を持ち、相談に乗りながら家族の意思決定を支援することになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、速やかに対応できるよう内部研修を行っている。救急の応急手当等の研修に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、消防署の協力のもと年2回火災避難訓練を行っているが、災害の訓練実績はない。今後の課題である。	消防署の協力で地域住民も参加して、年2回火災避難訓練を行っている。自然災害の訓練実績はない。今後の課題である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重しサービス時には常に敬うことを忘れず言葉遣いには注意している。特にプライバシーを侵さないよう、たとえばファクス上の利用者名はイニシャルにするなど配慮するよう努めている。	人格尊重を基本に、利用者の個性や状況に応じて適切な言葉掛けや接遇の仕方を具体的に考えるように意識している。トイレや入浴介護時に羞恥心を感じないように利用者の立場で考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側の価値観で物事を考えるのではなく、利用者側の視点に置き換えて、物事を判断するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ルーチン業務優先な仕事は極力廃止し、臨機応変に仕事を組み立て、利用者のその日の状況、様子に合わせた生活を支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室でカット出来る様支援している。また、行事や外出時にはお化粧や身だしなみのお手伝いをして、また、外出時にはおしゃれをして外出支援をしている。		

グループホーム レジデンスポピー（1階ポピーユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は利用者様のリクエストを伺い提供している。ひな祭りに合わせたちらしずしなど行事食を作っている。準備等は数名の利用者様に協力を得ている。	昼食は、利用者の希望する「かじか汁」などの季節の懐かしい料理を、調理法を利用者に聞いて作っている。餃子の餡包みの準備や後片付けに利用者が会話をしながら手伝っている。たまに出かける回転ずしなどの外食も楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量、水分量は毎日個別にチェックし、バランスの良いメニュー作りに取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて嗽、歯磨き、義歯洗浄を行い、場合によっては歯科医の往診による磨き方の指導等行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表でパターンを把握し、必要な方には声かけを行い誘導している。	排泄チェック表を利用して、パターンを把握して、声掛けや見守りでトイレに誘導、トイレでの自立排泄を支援している。本人本位に考え、熟睡と安心のために夜だけオムツを使用する利用者がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便間隔を把握し、食事に工夫をしたり、水分補給、適度な運動等で自然便につなげるよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在曜日を決め入浴日を決めているが、個々の希望に添った支援にむけ努力している。	最低週2回が基本だが、毎日入浴する利用者もいる。職員は、少しずつ入浴気分を高めていく方法で、スムーズな入浴につなげている。安全を考慮して、入浴剤は白濁したヌルヌルしたものを使わず、漢方薬草入りを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の好きな時間に休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の用法、用量などは、すぐに観覧できるようにファイルに保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴の把握を今後しっかりアセスメントしていけるよう取り組んでいきたい。編み物や塗り絵、詩吟など個々の能力、趣味、得意なことを活かせるよう支援している。		

グループホーム レジデンスポピー（1階ポピーユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を伺い、予定を立てて外出している。	天気の良い暖かい日は近くの公園に散歩に行く。車いすが2台積載可能なハイエースを利用して、初もうで、花見、紅葉見物など季節を感じるドライブに出かけている。プランターでの野菜作りは日向ぼっこを兼ね、適度な運動になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や身体状況等をご家族に理解して頂き、買い物の際には金額を決めて所持し、自分でお金を支払う事が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字が書ける利用者は家族へ手作りの葉書に一言添えて出したり電話等でお話したい希望がある時は随時家族に取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と職員と一緒に作成した季節感のある作品や装飾品をリビングに飾り好きな音楽を聴いたり、DVD等を見ながらゆったりとした時間を過せるよう工夫している。	居間は適度に明るく、清潔で、冬場は湿度の管理を心がける。事業所の窓から日本海と天狗山の四季の様子が見渡せる。決して広くはないが、利用者が椅子や机を伝わって移動できるので、安全が確保され親密な空間となっている。桜の飾りやひな祭りの貼り紙が季節を感じさせてくれる居心地の良い空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには大型テレビやソファがあり自由にテレビを観たりお茶などを飲みながら談話出来る。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのテレビを居室で使われたり、ご家族の写真が飾られたりと、本人が心地よく過ごせるように努めている。	位牌や家族の写真が飾られている。新しく購入することなく、家で使っていたそのままの品を入れてもらうようお願いしている。生活必需品だけではなく、思い出の使い慣れた文房具、台所用品、大工道具なども持ってきてもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の持っている、力を活かし自立した生活が送れるよう努力している。難聴の利用者が安全・安心に生活できるよう入り口やドアに張り紙をするなどの工夫をしている。		